感情体験の分析（Ⅶ）
——満足について——

鈴　木　賢　男*・上　杉　　喬**

Analysis of Some Emotional Experiences（7th report）: On Satisfaction

Masao Suzuki, Takashi Uesugi

[**abstract**] This is the 7th report of successive studies on analysis of some emotional experiences. In these studies a special questionnaire was revised, which contains 20 emotional works. Among them are joy, sorrow, anger, hatred, fear, humiliation and so on. The results of this study suggested that the feeling of satisfaction is caused by something he feels meaningful progression from starting point to ending point in several experiences.

はじめに

本研究は、感情体験についての一連の研究の第7報であり、本稿では、満足感情について、この感情を最も強く感じた体験の自由記述に基づいて、その感情の特徴を分析するものである。

第1報（上杉喬，榧場真知子，馬場史津 2002）においては、嫉妬、憎い、怒りの感情体験を分析した。その結果、嫉妬体験は①好意・愛情に関する嫉妬、②能力に関する嫉妬、③モノに関する嫉妬の3種類があり、その嫉妬感情が生起する特徴は、A自分にとって大切なモノ（所有したい好意・愛情、所有したい能力、所有したい物）が、B自分ではなく、C身近な人にある（好意・愛情が向けられる、能力を持っている、物を所有している）という3者関係において、C身近な人に対して嫉妬感情が生じるというものであった。また、憎いおよび怒り体験は、①他者からの行為、②自分の行為、③社会的事象の3種類があり、その憎い・怒り感情が生起する特徴は、A自分にとって大切なモノ（大切にしている人、大切にしている心、大切にしている物）が、B行為者（他者、自分、社会的事象の行為者）との2者関係において、B行為者によって、A大切なモノが「奪われる」または「壊される」場合に生じるというものであった。憎いと怒りは類似

*　すずき　まさお　文教大学人間科学部非常勤講師
**　うえすぎ　たかし　文教大学人間科学部臨床心理学科

した特徴を有するが、その違いは憎いが自身の直接的被害と、また怒りがより間接的な被害と結びついている点にあった。

第2報（鈴木賢男，鈴木国威，上杉喬 2002）においては、喜び、悲しいの感情体験を分析した。その結果、喜びおよび悲しい体験は、①人の存在に関わるもの、②物に関わるもの、③心（好意・愛情や充実）に関わるものの3種類があり、喜びの感情は、A自分にとって大切なモノ（大切にしている人、大切にしている心、大切にしている物）が、B自分自身との2者関係において、B自分自身がA大切なモノを「得る」場合には喜びが、逆に、「失う」場合には悲しみが生じるというもので、その意味で喜びと悲しみは、それが生起する上で「得る⇔失う」の対極的な関係にあることを明らかにした。

第3報（上杉喬，岡本かおり，平宮正志，吉川延代 2003）においては、驚き、寂しい、愛しい、空しいの感情体験を分析した。その結果、驚き体験は、①大切なモノ（心・物・能力・人）を得ることに対するもの、②大切なモノ（心・物・能力・人）を失うことに対するもの、③思いもよらない事実・出来事・考え方に対するもの、④思いもよらない大きな変化に対するもの、⑤身の危険を感じる出来事に対するものの5種類があり、驚きの感情は、Aそれらの出来事が、B自分自身にとって、予想外・想像外・偶然・初めて・稀な場合に生ずるというものであった。愛しい体験は、A自分にとって大切なモノ（人・物・心）が、B自分との関係で、自分より力が弱く、無力で自分を頼りにしていると感じる場合に生ずるというものであり、また、寂しいおよび空しい体験は、A自分にとって大切なモノが、B自分自身に「満たされていない」場合に生じるというものであった。寂しいと空しいは、類似した特徴を有するが、その違いは、寂しいが、今まであったものが欠けてしまって今は無い状態、空しいは、求めても得られず今も無い状態、と結びついている点にあった。

第4報（鈴木賢男，上杉喬 2003）においては、失望の感情体験を分析した。失望体験は、①あるはずのモノ（人・心・物・能力・機会）を失うことに関するもの、②期待するモノ（人・物・成果・能力・機会・環境・運）が得られないことに関するもの、③直面したくなかったこと（人間性・事件・失敗）に直面することに関するものがあり、失望の感情はそれらの事象が生起した場合に生ずるというものであった。

第5報（右山裕一，上杉喬 2004）においては、屈辱の感情体験を分析した。その結果、屈辱体験は、①自分の立場を直接に人から貶められる（侮辱、恥辱）、②自分の立場を自ら弱めて間接的に人から貶められる（敗北、大失敗）、そして、③その状況に耐え忍ばざるを得ない場合に生じる、というものであった。

第6報（上杉喬，芝塚梨華，高橋直美，平宮正志 2004）においては、恐れ、充実、恥ずかしいについての感情体験を分析した。その結果、恐れ体験は、①目前に迫っている危害・危険に対する恐れ、②日常生活に潜んでいる危害・危険に対する恐れ、③自分の行く先（遠くない将来）に対する恐れ、④人に危害を及ぼしうる自分への恐れの4種類があり、その恐れ感情が生起する特徴は、A自分に損害を与えるモノに、直接的あるいは間接的に、B自分が気づいた場合に生じるというものであった。充実体験は、①達成すること、②携わっていること、③暇な時間がないこと、④新鮮な体験をすること、⑤良い状態にあること、⑥好きな人と関わっていることの6種類があり、A自分にとって有意義なモノに対して、B自分が焦点づけられている場合に生ずるものであった。恥ずかしい体験は、①異性との接触、②統制の効かなかった自分、③上手くいかなかった自分、④変調をきたした自分の身体、⑤人前にさらされている自分、⑥見聞きした内容に関

する6種類のものがあり、恥ずかしいの感情は、A表には出したくないと思っているモノが、B自分の身に起こった変化によって、思わず露呈されてしまった状況となった場合に生起するものであった。

以上と同様に、本研究においても、満足の感情が生起する上での特徴を検討するものである。

方　法

1. 調査質問紙

本研究で使用した質問紙は「体験した感情」として嫉妬、後悔、憎い、満足、屈辱、空しい、愛しい、不安、喜び、苦しい、驚き、恐れ、怒り、寂しい、充実、嫌悪、ためらい、恥ずかしい、悲しい、失望の20感情を挙げ、「あなたの今までの体験の中で、次の1から20のような感情を最も強く抱いた体験・出来事を思い出して、それがどんな出来事だったのか、分かるように書いて下さい。また、その出来事がいつ頃（何才位）の事なのかも書いて下さい」と教示し、「その感情を体験した出来事」を30字程度のスペースに自由記述するものであった。

2. 調査対象・時期・手続き

B大学の「感情心理学」の授業において、1999年度（227名）、2000年度（190名）、2001年度（190名）の受講生、合計607名を対象に、授業初日に調査用紙を配付し、翌週の授業で回収という手続きをとった。調査は記名式であった。

3. 感情体験時の年令

1つの出来事に対して1つの年令（学年、才頃や才位を用いた表記も含む）が記述されていた人数は487名（80.2％）だった。それ以外は複数の年令、もしくは年令に幅（期間）がある記述だった。複数の年令が記述されていた場合、その感情を強く抱いた初めての年令（例：5才,15才→5才）を採用し、年令に幅があった場合、中央値（例：高校生→16才）を採用して、一定の年令に換算した。

4. 満足体験の分類

調査対象者607名のうち、具体的に「満足」体験の内容を明記した者は581名（95.7％）であり、未記入は21名（3.5％）、「あまり感じたことがない」あるいは「多すぎて書けない」とするものが3名（0.5％）、「トマトを食べる」「記憶のない頃」の文意不明が2名（0.3％）であった。内容を明記した581名の中で「満足」体験をした年令が未記入の者は61名（10.5％）であった。

4-1 満足の対象（何に満足したか）による分類　満足体験の581名の記述から「満足の対象（何に満足したか)」について分類したところ、次の71のカテゴリ 1) ～ 71）に区分することができ、71の内容はさらに9つの中分類（①～⑨）にまとめることができ、更に4つの大分類（Ⅰ～Ⅳ）にまとめることができた。各カテゴリに含まれる具体例と体験時の年令を以下に示した。

Ⅰ　意味や意義のある時間

①最後までやり終えたこと

1）課題（レポート等）や行事を終わらせた：例えば、「徹夜してレポートを仕上げた（20才）」「小学校の夏休みの宿題で貯金箱を作り終えた気持ち（7才）」「学校祭で吹奏楽（部活）の演奏を終えた時（13才）」

2）苦しいこと（練習等）を終えることができた：「もう歩けないぐらいきつい部活の練習が終わった後（16）」「半年におよぶダラダラ通っていた教習所を卒業し、免許を取った時。かなり満足です。縛られずにすむので（19）」

3）苦難が続いたがのりきった：「ものすごくたくさんの試験を1つも単位を落とさず、切り抜けたとき（19）」「2週間限定ダイエットを乗り切ったとき（19）」

4）クラスや行事での役割を果たした：「中学校の学祭の壁新聞つくりを私が中心になってやって、苦労して完成したこと（15）」「謝恩会の代表で、謝辞を長文暗記したのを全卒業生の前で言えきったとき（17）」

5）所定のゴールまで行き着いた（長距離運動等）：「水泳で800mを泳ぎきったとき（15）」「ゲームを始めて、クリアしてやり遂げたときの達成感（19）」

6）一定の活動（クラブ等）を長期間やり通した：「中学校の野球を3年間精一杯がんばり終えたとき（15）」「バイトをやり終えたとき。8月中ほぼ毎日、朝から夜まで働きづめで、終わったときはやり終えたことに満足（21）」

7）長期計画されたことをやりきった：「文化祭に向けて夏休みから練習をしていた歌を文化祭で公演して、それが終わったとき（17）」「自分が1年前から計画していたことをやりきったこと（22）」

8）最後まで自分の力でやりきった：「自分一人の力で何か大きな仕事をやり遂げたとき（12）」「自分のバイト代で、今のアパートを借りて、部屋の荷物を整理し終えたとき（19）」

②最後に報われたこと

9）目標としていたことが達成できた：「自分の目指していたタイムが突破できたとき（12）」「習い事で長年目標にしていたことが達成できたとき（15）」

10）練習（訓練）や勉強の成果があらわれた：「練習をして泳げるようになったとき（10）」「部活でがんばった成果が出て、インターハイ出場をかけた試合に勝ったとき（17）」「なかなかがんばって勉強した講義の成績がAAだったとき（19）」

11）技能（習い事）の向上が認められた：「習ってた書道でだんだん上手くなっていったとき（8）」「空手で初段を習得した（15）」

12）最後に一矢報いることができた：「高校の時から、弓道をやっていて、最後の試合で皆中（4射4中）を出して、決勝戦まで残れた時、最後の最後で力を出し切れた気がして、満足だった（18）」

13）長期にわたる努力の決着（合格等）を得た：「私立の中学に合格したと知ったとき（12）」「高校入試で志望校に1番の成績で入学しようと計画し、成功したとき（15）」「1年浪人して、自分が一番受かりたいと思った大学に受かったとき（19）」

14）アルバイトをしてその対価が得られた：「アルバイトをして、給料をもらったとき（17）」「短期で夜勤の荷物の仕分けのバイトに入り、かなり仕事がきつかったものの手取りで10万円もらったとき（19）」

15）一生懸命したことが人に認められる：「自分が一生懸命練習したピアノ曲を発表し、他人に認められたとき（16）」「部活動で試合のためのユニホームを渡されたとき（17）」「自

分の仕事をこなして、それが評価されたとき（20)」

③充実した時間が持てたこと

16）目標をもってがんばれた：「自分の目標へ努力するとき（17)」「目標とする大学があり、それに向かい全力を尽くし日々が充実していた（18)」

17）本番の最中に力を出すことができた：「部活でいい緊張感で全力を出すことができた試合（14)」「習字で、力作がかけたこと（15)」

18）好きなこと（趣味等）に没頭した：「ずっと欲しかったピアノをもらい、毎日弾いてたこと（13)」「友達と朝から夜まで、大好きなゲームをゲームセンターでやった（19)」「自分のしたいことを気が済むまでしたとき（20)」

19）時間をかけた旅（ツーリング等）ができた：「船で北海道に行ったこと（14)」「自転車で、北海道を一周したとき（19)」

20）順調な日々で未来に期待が持てる感じがする：「何もかもうまくいっているとき（12)」「大学に入ったとき。そして今現在の自分の生活も（未記入)」「衣、食、住があり、周りに適応できる現在（22)」

21）過去を顧みて有意義であったと思えた：「高校2年の最後に1年間を思い起こしてみて（17)」「客観的に人生を振り返ることができるようになり、それまでを振り返ってみたとき。自分に満足（19)」

22）時間を有効に使うことができた：「充実した1日が過ごせたとき（19)」「時間を有効に使えたと思うとき（未記入)」

23）長期の休暇で思う存分楽しんだ：「夏にホームステイをして、スキューバーからスカイダイビングまでできた（19)」「休み中、旅行や趣味や会いたい人に会うなど、やりたいことを叶えたこと（20)」

24）心の赴くままに好きなことができた：「大学で好きな勉強ができていること（22)」「今の状況。自分のやりたいことができているから（不明)」

25）作品（映画等）に感動した：「すばらしい推理小説（アガサ＝クリスティーの『オリエント急行の殺人』）を読み終えたとき（17)」「いい映画を観た（19)」

26）綺麗な景色を見た：「函館に家族旅行に行き、満開の桜を見たとき（12)」「初めて沖縄に行って今まで見たことのなかった真っ青で綺麗な海を見たとき（19)」

27）生の音楽（ライブ等）を聞いた：「生まれて初めてライブイベントに行ったとき（14)」「大好きなミュージシャンのライブに行ったとき（18)」

28）晴れの舞台にたつことができた：「初めて、ミュージカルの舞台に立ったとき（13)」「高校の行事でステージの上で歌を歌ったとき（18)」

29）続けざまに良い状態になった：「ディズニーランドで普段は長い時間並ぶ乗り物に短時間の待ち時間で何度も乗れたり、ゆっくり買い物ができたとき（20)」「沖縄の高速で120km／h出し、1つしかないサービスエリアに入った（20)」

Ⅱ　抱いていた願望の成就

④今までにない良い物や状態を得ること

30）欲しかった物を手に入れることができた：「自分がどうしてもほしかった靴を手に入れたとき（17)」「買い物で自分の気に入ったものを買えたとき（18)」「頑張ってお金を貯めて70万の新しいフルートを買ったとき（19)」

31）行きたかった場所を訪れることができた：「ずっとディズニーランドに行ってみたいと思っていて、はじめて行けたとき（16)」「はじめての海外旅行で、ハワイに行って、空港から降り立ったとき（18)」

32）今まで言えなかったことを言い表せた：「自分の考えをきちんと相手に伝えられたとき（18)」「今まで言えなかったことを話せたとき（20)」

33）今までよりもお金が入り豊かになった：「お年玉が全額もらえるようになったとき（18)」「貯金が70万円まで達したとき（17)」

34）今までよりも自由な身になれた：「大学に合格して一人暮らしができると思ったとき（18)」「アパートで一人暮らしを始めて、初めての一人部屋（18)」

35）今まで心配していたことが解決された：「中学、高校と真面目に学校に行かなかった妹が真面目になったこと（18)」「2年間絶交していた友人と仲直りして一緒に眠った夜（18)」

⑤比較的良い物や状態を得ること

36）自分（達）の力量の手応えを感じた：「合唱をやっていたとき、歌い終わってからホールに響くのを感じると（13)」「部活の大会で、入賞できなかったけど、自分たちの中では入賞できるくらいの演奏ができたと思えたとき（14)」

37）自分なりに納得のいく結果になった：「納得のゆく絵や工作が出来たこと（10)」「部活の大会で納得できる結果が出せたとき（18)」

38）値段以上の価値がありお得な感じがあった：「欲しい服がリーズナブルな値段で買えたとき（20)」「自分の車を買うとき、12万円で売ってもらって、どの程度かなと思って乗ってみたら、非常にコンディションがよかったとき（20)」

39）賭け事に勝って儲けることができた：「パチンコやって勝ったとき（19)」「パチスロで5万円勝ったあとの買い物（20)」

40）髪型やコーディネートがピッタリ合った：「あのスカート合うだろうなと思って買ったTシャツが本当にベストマッチだった。満足（19)」「美容院で気に入る髪型をしてもらえたとき（20)」

41）大会や試験などで良い成績を残せた：「部活（ゴルフ）の試合、よいスコアが出たとき（17)」「自分の思っていたとおりの成績がとれたとき（19)」

42）取りかかった行事が成功した：「バンドを組んでボーカルを初めてやって、初ライブでかなり盛り上がって成功したとき（16)」「自分の委員会で『本の中の世界』をテーマに出し物をし、好評だったこと（16)」

43）作品や演奏などがミスなく上手にできた：「自分の描きたかった、あるいはそれ以上に絵が上手く描けたとき（10)」「ピアノの発表会で間違えることなく全て弾くことができた（16)」「料理を上手に美味しく作れたこと（20)」

44）予定していたことが思い通りに進んだ：「高校のとき、勉強しただけで点数がちゃんと上がっていた（16)」「順調に単位が取れていること（19)」「バイトで自分の思い通りに事が運んだとき（20)」

45）作品や演奏などを他者に喜んでもらえた：「老人ホームに行き、吹奏楽の演奏をしたとき、たくさんの方がうれしそうに笑ってくれた（14)」「太鼓の演奏でアメリカに行ったとき、お客さんがとても喜んでくれたとき（15)」「自分が頑張って作り上げたもので皆に喜んでもらえた（20)」

Ⅲ　対人的関係上の承認（再認）

⑥人よりも秀でる状態を得ること

46）相手（人）よりも勝ることができた：「いつも喧嘩で泣かされていた兄に、ある日噛みついて反対に泣かしたとき（7)」「中学生のとき、部の県大会の団体戦で県内1のチームに私たちのペア以外が負けて、優越感に近いものを得た（15)」「先生に皆の前で、誉められて、勉強法を聞きにきてくれた人がいたこと（17)」

47）コンテストや大会で入賞した：「がんばった自由研究が誉められて、学校で賞状をもらったとき（12)」「書道大会で入選したこと（11)」

48）人並みはずれた技術・能力を持っていた：「縄跳び・コマ回し・跳び箱ができること(4)」「小学校のとき、テストがほとんど90点以上だったこと（11)」「試合での心臓の強さを実感したこと（17)」

49）試合や試験で上位に入ることができた：「中学3年のとき、部活で県大会に行けたこと(15)」「学校の成績が、学年3位だったとき（17)」「テストが学年で一番になったとき(18)」

⑦人と友愛や情愛を感じる状態を得ること

50）身近な人（親・友だち等）に誉められた：「夕飯を全部食べて、お母さんにほめられたとき（4)」「恋人が私の料理を美味しいと言って食べてくれたこと（19)」「大学2年の春学期の成績がとても良く、恋人や親が誉めてくれた（20)」

51）友だちとの関係が望ましい状態にある：「中学校や高校で卒業したあとでも付き合っていけそうな親友ができ、一緒に行動したり、悩みを相談し合ったりしているとき（14)」「友だちといろいろなことを語り合っているとき（14)」

52）家族とともに一家団欒をして和んだ：「ケーキをたくさん買って、家族でクリスマスの夜を楽しんだとき（11)」「家族4人で仲良く焼き肉を食べているとき（19)」「家族みんなで、居間で団欒したこと（20)」

53）好きな人（恋人）と一緒にいられた：「大好きな人がそばにいてくれたとき（16)」「彼氏と1日中一緒にいれたとき（19)」

54）身近な人がよい人で恵まれていると感じた：「両親の元に生まれたこと（12)」「すばらしい母親を持ったと実感するとき(17)」「よい友だちに囲まれているなと思ったとき(18)」

55）身近な人に大切にされた：「誕生日に自分の好きなものを買ってもらえた（7)」「誕生日に母が果物を大皿に山盛りのせてくれて全部食べた（15)」「彼氏にプレゼントをもらったとき（18)」

56）出会ったときよりも親密になれた：「ウィーンに演奏旅行に行ったとき。出会ったばかりの仲間たちと一緒に演奏したり、ウィーンの街並みを歩けたこと（17)」「憧れていた人と友だちになったとき（17)」「片思いの女性と付き合えたとき（19)」

Ⅳ　生理的な心地よさの持続（余音）

⑧心地よい刺激を与えられた食事

57）空腹が満たされる：「お腹が空いたとき、ちゃんとご飯が食べられたとき（5)」

58）腹一杯（満腹）になった：「満腹になったときは常に満足（未記入)」

59）食べ物がおいしかった：「おいしい料理を食べたとき（20)」

60）好物を食べた：「大好きなたこ焼きを食べれたこと（不特定)」

61）たくさんの量を食べた：「食べ放題に行って思いっきり食べた後（18)」
62）おいしいものを腹一杯食べた：「おいしいものをおなかいっぱい食べたとき（5)」
63）好物を腹一杯食べた：「好きな食べ物を腹一杯に食べたとき（5)」
64）おいしいものをたくさん食べた：「美味しいケーキをたくさん食べた（17)」
65）好物をたくさん食べた：「好きな食べ物を思う存分食べられたとき（20)」
66）ご馳走（お寿司等）を食べた：「お寿司を初めて食べたとき（12)」
67）口の中でほおばった：「分厚い肉を口にほおばったとき（18)」

⑨休息を得る

68）緊張が緩和した：「食後のいっぷく・レポート完成後のいっぷく（不特定)」
69）横になれた：「すごく疲れていて布団に入った瞬間（15)」
70）ぐっすり眠れた：「ぐっすり眠ったとき（15)」
71）のんびり過ごした：「早い時間にゆったりと風呂に入っているとき（12)」

4-2 満足の状況による分類　満足体験の記述から、「どういう場合、どういう状況で満足感情が生起したのか」について分類したところ、581名の記述内容は、全て、次の7分類 1）～ 7）のいずれかに属するものであり、7つの内容はさらに3つの分類（①～③）にまとめることができた。なお、例文を分類する上で、判断の要とした主要な語彙をアンダーラインによって示した。

①思い描いていた対象が得られたことで、思いを遂げた場合

1）切望していた（ずっと欲しいと願っていたモノがやっと得られた）

例えば、「中学、最後の陸上部の大会で、自分のベストタイムを上回ったとき（15)」「父親にオセロで初めて勝ったとき（10)」「とってもほしかった服をお金をためて買ったとき（19)」「ずっとディズニーランドに行ってみたいと思っていて、はじめて行けたとき（16)」「空腹で死にそうなとき、お金が入り、飯が食えたこと（不特定)」「ずっと好きだった人とお付き合いができたこと（17)」

2）希望していた（可能ならそうありたい、したいと思っていたモノが図らずとも得られた）

「レポートが余裕を持って終わったとき（20)」「勉強を全然しなかった自分が珍しく勉強を1日何時間もしたとき（17)」「放課後、一生で二度と見られないような夕焼けを見たとき（18)」「現状。道は開けている、と思う（20)」「その日成すべきことを終わらせ、周りの人とも良い状態で就寝するとき（不特定)」「好きな食べ物を多く食べられたとき（未記入)」「部活に入っていて試合をしたときに、自分なりに良い結果が出せたこと（12)」「人間関係がとても良好で、アルバイトの仕事もミスなくやり遂げることができたとき。自分にとても満足できた（20)」

3）想定していた（予想・予定していたモノが思い通り得られた）

「絶対受かっていると思っていた高校入試に合格したこと（15)」「確信していたとおり、部活の市内大会で優勝したとき。喜びもあったけれど、確信していたので満足感が強かった（14)」「自分のほしいと思っていたものを買いに行って、予定どおりののぞみの物を手に入れたとき（19)」「定期テストのとき、毎日計画どおりに勉強が進んで、結果もよかったとき（14)」「自分の思ったとおりに物事が進んでいると感じたとき（20)」

②心の支えとなるモノが得られてそれに身をゆだねている場合

4) 幸せなひととき（得られただけでも良いがいつまででも浸っていたいモノ）

「久々に実家に帰ってのんびりして母の手料理を食べた（20）」「高校の部活で、最後の試合には負けたけど、全員が本当に仲良くなれて充実した気持で部活を終えられたこと（17）」「高校の友だちと久しぶりに遊んだとき（19）」「家族で久しぶりに日帰りだけど、旅行に行ったとき（18）」「家族・友だち・恋人に囲まれて幸せだと感じたとき（18）」「彼氏にプレゼントをもらったとき（18）」「自分の好きなものを食べたとき（不特定）」

③目前の対象に継続的に関わり続けていたことが終了した場合

5) 心惹かれた（素晴らしいモノに心を惹かれていた）

「大学入学後、川沿いの満開の桜を見たとき（19）」「ノッティングヒルの恋人」を見て、とても感動し、そして大笑いし、何度もみたいと思った（20）」「コーヒーやお茶がたまらなく美味しくて、ため息が出たとき（未記入）」「音が重なった瞬間（13）」

6) 存分にした（好きなモノへ思いの限りに関与し続けた）

「学園祭などで、積極的参加できた（16）」「好きなことを金や時間を考えないでやっているとき。彫刻とか（不特定）」「好きな歌を好きなだけ歌えていたとき（12）」「埼玉から長野までチャリで帰ったこと（20）」「横浜中華街で思うぞんぶん食べたこと（19）」「ケーキ食べ放題で思いっきり食べた（16）」「12月31日、1月1日を眠らずに過ごして、1月2日に好きなだけ睡眠をとったとき（不特定）」

7) がんばってやった（課せられたモノを最後まであきらめずに関与し続けた）

「高3の大学受験の時に毎日受験勉強して頑張って行きたい大学に入れたとき（18）」「一生懸命働いて給料が思っていたより多かったとき（18）」「食べ放題のお店で胃がふくれあがるほど食べたとき（15）」「大量にあったレポートを全て書き終えた（19）」「部活でくたくたになるまで練習した」「はじめて400mを走りきったとき、つらかったけど満足感があった（15）」「中学校の文化祭で1人3、4役もこなして、全てうまくいった（12）」

4-3 満足にいたるための条件による分類　喜びの場合には、事象の結果として得たモノが「自分にとって大切なモノ（鈴木・鈴木・上杉 2002）」であるという条件を満たした際に生ずること、そこに力点をおくものであったが、満足の場合には、結果だけではなく、それに先んじている事象（例：すごく欲しかった，がんばった等）を必要としている側面がある。従って、満足にいたるための条件としては、結果のみならず先行条件となるものを考慮することとした。また、自分の身に生じた状態（事象の結果もしくは先行条件）が「ただそれだけではなかった」ことによる満足体験の異なる側面（例：のみならず，まで）も、一定数見受けられたことから、一方の好状態との比較条件（対照となる好状態）となるものも考慮することとした。

更に、比較対照する好状態の水準から、同位あるいは変位する場合のあることを考慮して、必要（最低限）な好状態と充分（最大限）な好状態という2つの水準を想定した。以上のことから、まず、先行する条件を“因”と表記し、やむにやまれずに生じたと思われるものを「必要因」、自らの意志で積極的に生じさせたと思われるものを「充分因」とした。次に、得られたモノを“果”と表記し、自分にとって必要（最低限）だと思われるようなものを「必要果」、充分（最大限）だと思われるようなものを「充分果」として、満足体験に記述されている主とした事象の開始点における状態と終了点における状態で、どの条件が成立していたのかを当てはめ、条件の組合せを分類した。これによって、満足体験の記述は、以下のように6種類の条件関係に分類できた。

1）必要因→必要果：必要因による関与から必要果が得られた
2）充分因→充分果：充分因による関与から充分果が得られた
3）必要因＜充分因：必要因による関与だけではなく充分因による関与をし得た
4）必要果＜充分果：必要果が得られただけではなく、充分果も得られた
5）充分果＋充分果：あれもこれも充分果が得られた
6）充分果…充分数：同一の充分果をもつ対象が多数得られた

表1　満足体験の対象別分布と年齢区分別分布

分割表1.1　Ⅰ　意味や意義のある時間

内容		度数	%	年令区分							
				4～5	6～8	9～11	12～14	15～17	18～20	21～24	未記入不特定
①最後までやり終えたこと	1）課題（レポート等）や行事を終わらせた	20	3.4		2		2	4	12		
	2）苦しいこと（練習等）を終えることができた	7	1.2				1	3	3		
	3）苦難が続いたが乗り切った	4	0.7						4		
	4）クラスや行事での役割を果たした	7	1.2				1	3	1	2	
	5）所定のゴールまで行き着いた（長距離運動等）	8	1.4		1			4	2	1	
	6）一定の活動（クラブ等）を長期間やり通した	11	1.9				1	5	4	1	
	7）長期計画されたことをやりきった	3	0.5					1	1	1	
	8）最後まで自分の力でやりきった	6	1.0			1	1		4		
	（小計）	66	11.4		3	1	6	20	31	5	
②最後に報われたこと	9）目標としていたことが達成できた	5	0.9				1	1	1		2
	10）練習（訓練）や勉強の成果があらわれた	18	3.1	1		1	2	5	9		
	11）技能の向上が認められた	4	0.7		1			1	1		1
	12）最後の最後に一矢報いることができた	6	1.0				1	3	2		
	13）長期にわたる努力の決着（合格等）を得た	38	6.5				3	11	20	1	3
	14）アルバイトをしてその対価が得られた	13	2.2					3	9	1	
	15）一生懸命したことが人に認められる	7	1.2					3	4		
	（小計）	91	15.7	1	1	1	7	27	46	2	6
③充実した時間が持てたこと	16）目標をもってがんばれた	7	1.2					3	3	1	
	17）本番の最中に力を出すことができた	6	1.0				2	3	1		
	18）好きなこと（趣味等）に没頭した	9	1.5				3		5		1
	19）時間をかけた旅（ツーリング等）ができた	4	0.7				1		3		
	20）順調な日々で未来に期待が持てる感じがする	15	2.6				1	1	7	2	4
	21）過去を顧みて有意義であったと思えた	6	1.0				1	3	2		
	22）時間を有効に使うことができた	7	1.2						2	2	3
	23）長期の休暇で思う存分に楽しんだ	3	0.5						2	1	
	24）心の赴くままに好きなことができた	7	1.2					1	3	1	2
	25）作品（映画等）に感動した	6	1.0					1	5		
	26）綺麗な景色を見た	5	0.9				1	1	3		
	27）生の音楽（ライブ）を聞いた	5	0.9				1		4		
	28）晴れの舞台にたつことができた	4	0.7		1		1	2			
	29）続けざまに良い状態に至った	5	0.9						3	2	
	（小計）	89	15.3		1		11	15	43	9	10
合計		**246**	**42.3**	**1**	**5**	**2**	**24**	**62**	**120**	**16**	**16**

分割表1.2　Ⅱ　抱いていた願望の成就

内容		度数	%	年令区分 4～5	6～8	9～11	12～14	15～17	18～20	21～24	未記入不特定
④今までにない良い物や状態を得ること	30）欲しかった物を手に入れることができた	23	4.0			1		3	15	1	3
	31）行きたかった場所を訪れることができた	4	0.7					1	3		
	32）今まで言えなかったことを言い表せた	6	1.0						5		1
	33）今までよりもお金が入り豊かになった	4	0.7				1	1	2		
	34）今までよりも自由な身になれた	3	0.5						3		
	35）今まで心配していたことが解決された	4	0.7					1	2		1
	(小計)	44	7.6			1	1	6	30	1	5
⑤比較的良い物や状態を得ること	36）自分（達）の力量の手応えを感じた	4	0.7				4				
	37）自分なりに納得のいく結果になった	5	0.9			1	1	2	1		
	38）値段以上の価値がありお得な感じがあった	4	0.7						4		
	39）賭け事に勝って儲けることができた	3	0.5						2	1	
	40）髪型やコーディネートがピッタリと合った	3	0.5						3		
	41）大会や試験などで良い成績を残せた	17	2.9		1		5	4	5		1
	42）取りかかった行事が成功した	10	1.7				1	4	5		
	43）作品や演奏などがミスなく上手にできた	14	2.4			1	1	4	7		1
	44）予定していたことが思い通りに進んだ	8	1.4				1	1	5		1
	45）作品や演奏などを他者に喜んでもらえた	4	0.7				1	1	2		
	(小計)	72	12.4		1	2	14	16	34	1	3
合計		**116**	**20.0**		**1**	**3**	**15**	**22**	**64**	**2**	**8**

分割表1.3　Ⅲ　対人的関係上の承認（再認）

内容		度数	%	年令区分 4～5	6～8	9～11	12～14	15～17	18～20	21～24	未記入不特定
⑥人よりも秀でる状態を得ること	46）特定の相手（人）よりも勝ることができた	17	2.9	1	3	3	2	6	1		
	47）コンテストや大会で入賞した	7	1.2		1	2	3	1			
	48）人並みはずれた技術・能力を持っていた	3	0.5	1		1		1			
	49）試合や試験で上位に入ることができた	26	4.5	1	2	1	6	13	2	1	
	(小計)	53	9.1	3	6	7	11	21	3	1	
⑦人と友愛や情愛を感じる状態を得ること	50）身近な人（親・友だち等）に誉められた	12	2.1	2	1		1	4	3	1	
	51）友だちとの関係が望ましい状態にある	17	2.9		1	1	3	4	6	1	1
	52）家族とともに一家団欒をして和んだ	6	1.0			2			4		
	53）好きな人（恋人）と一緒にいれた	6	1.0					1	5		
	54）身近な人がよい人で恵まれていると感じた	7	1.2				1	2	4		
	55）身近な人に大切にされた	14	2.4	2	3			2	5	2	
	56）出会ったときよりも親密になれた	7	1.2			1		4	2		
	(小計)	69	11.9	4	5	4	5	17	29	4	1
合計		**122**	**21.0**	**7**	**11**	**11**	**16**	**38**	**32**	**5**	**1**

分割表1.4　Ⅳ　生理的な心地よさの持続（余音）

内　　容		度数	%	年令区分							
				4～5	6～8	9～11	12～14	15～17	18～20	21～24	未記入不特定
⑧心地よい刺激を与えられた食事	57）空腹が満たされる	4	0.7	1	1						2
	58）腹一杯（満腹）になった	13	2.2	3		1	1		3		5
	59）食べ物がおいしかった	18	3.1				1	3	4		10
	60）好物を食べた	4	0.7								4
	61）たくさんの量を食べた	10	1.7			1		3	3	1	2
	62）おいしいものを腹一杯食べた	10	1.7	1		1			4	1	3
	63）好物を腹一杯食べた	3	0.5	1					2		
	64）おいしいものをたくさん食べた	7	1.2					3	2		2
	65）好物をたくさん食べた	4	0.7						2		2
	66）ご馳走（お寿司等）を食べた	9	1.5				1	1	6		1
	67）口の中でほおばった	1	0.2						1		
	（小計）	83	14.3	6	1	3	3	10	27	2	31
⑨休息を得ること	68）緊張が緩和した	5	0.9						1	1	3
	69）横になれた	2	0.3					2			
	70）ぐっすり眠れた	4	0.7				1	1			2
	71）のんびりと過ごした	3	0.5				1		2		
	（小計）	14	2.4				2	3	3	1	5
合計		**97**	**16.7**	**6**	**1**	**3**	**5**	**13**	**30**	**3**	**36**
総　計		**581**	**100.0**	**14**	**18**	**19**	**60**	**135**	**246**	**26**	**61**

結　　果

1．満足体験の「対象（何に）」の分布

表1．に「満足の対象（何に満足したか）」によって分類した4つの大分類と9つの中分類、71のカテゴリの年令区分別分布を示した。

満足体験4つの大分類ごとの出現頻度は、『Ⅰ意味や意義のある時間』に対する満足が246名（42.3％）、『Ⅱ抱いていた願望の成就』に対する満足が116名（20.0％）、『Ⅲ対人関係上の承認（再認）』に対する満足が122名（21.0％）、『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』に対する満足が97名（16.7％）であった。

『Ⅰ意味や意義のある時間』に対する満足においては3つの中分類があった。①最後までやり終えたこと（66名，11.4％）で最も出現頻度が多かったものは、1.課題（レポート等）や行事を終わらせた（20，3.4）、次いで6.一定の活動（クラブ等）を長時間やり通した（11，1.9）であった。②最後に報われたこと（91名，15.7％）では、13.長期にわたる努力の決着（合格等）をえた（38，6.5）、次いで10.練習（訓練）や勉強の成果があらわれた（18，3.1）、14.アルバイトをしてその対価が得られた（13，2.2）であった。最後に③充実した時間が持てたこと（89名，15.3％）では、20.順調な日々で未来に期待が持てる感じがする（15，2.6）が最多であった。

『Ⅱ抱いていた願望の成就』に対する満足においては2つの中分類があった。④今までにない良い物や状態を得ること（44名，7.6％）で出現頻度が最も多かったものは、30.欲しかった物を

手に入れることができた（23，4.0）、⑤比較的良い物や状態を得ること（72名，12.4％）では、41.大会や試験などで良い成績を残せた（17，2.9）、次いで43.作品や演奏などが上手にできた（14，2.4）、42.取りかかった行事が成功した（10，1.7）であった。

『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』に対する満足においても2つの中分類があった。⑥人よりも秀でる状態を得ること（53名，9.1％）で出現頻度が最も多かったものは、49.試合や試験で上位に入ることができた（26，4.5）、次いで46.特定の相手（人）よりも勝ることができた（17，

表2　満足体験の対象と体験時の状況とのクロス表
分割表2.1　Ⅰ　意味や意義のある時間

内容		度数	%	対象を思い描いていた			不可分	対象に関与し続けていた		
				切望していた	希望していた	想定していた	幸せなひとき	心惹かれた	存分にした	がんばってやった
①最後までやり終えたこと	1）課題（レポート等）や行事を終わらせた	20	3.4	1	2					17
	2）苦しいこと（練習等）を終えることができた	7	1.2							7
	3）苦難が続いたが乗り切った	4	0.7							4
	4）クラスや行事での役割を果たした	7	1.2		1					6
	5）所定のゴールまで行き着いた（長距離運動等）	8	1.4		2					6
	6）一定の活動（クラブ等）を長期間やり通した	11	1.9		1					10
	7）長期計画されたことをやりきった	3	0.5			1				2
	8）最後まで自分の力でやりきった	6	1.0	3	1					2
	(小計)	66	11.4	4	7	1				54
②最後に報われたこと	9）目標としていたことが達成できた	5	0.9							5
	10）練習（訓練）や勉強の成果があらわれた	18	3.1	2						16
	11）技能の向上が認められた	4	0.7	4						
	12）最後に一矢報いることができた	6	1.0	6						
	13）長期にわたる努力の決着（合格等）をえた	38	6.5		1	2				35
	14）アルバイトをしてその対価が得られた	13	2.2	9	1					3
	15）一生懸命したことが人に認められる	7	1.2				1			6
	(小計)	91	15.7	21	2	2	1			65
③充実した時間が持てたこと	16）目標をもってがんばれた	7	1.2						3	4
	17）本番の最中に力を出すことができた	6	1.0						4	2
	18）好きなこと（趣味等）に没頭した	9	1.5						9	
	19）時間をかけた旅（ツーリング等）ができた	4	0.7						4	
	20）順調な日々で未来に期待が持てる感じがする	15	2.6	3	11					1
	21）過去を顧みて有意義であったと思えた	6	1.0		1				5	
	22）時間を有効に使うことができた	7	1.2		5				2	
	23）長期の休暇で思う存分に楽しんだ	3	0.5		1				2	
	24）心の赴くままに好きなことができた	7	1.2						7	
	25）作品（映画等）に感動した	6	1.0	2				4		
	26）綺麗な景色を見た	5	0.9		2			3		
	27）生の音楽（ライブ）を聞いた	5	0.9	1				4		
	28）晴れの舞台にたつことができた	4	0.7	4						
	29）続けざまに良い状態に至った	5	0.9		5					
	(小計)	89	15.3	10	25			11	36	7
合計		**246**	**42.3**	**35**	**34**	**3**	**1**	**11**	**36**	**126**

分割表2.2　Ⅱ　抱いていた願望の成就

内　　容		度数	%	対象を思い描いていた			不可分	対象に関与し続けていた		
				切望していた	希望していた	想定していた	幸せなひとときき	心惹かれた	存分にした	がんばってやった
④今までにない良い物や状態を得ること	30）欲しかった物を手に入れることができた	23	4.0	22		1				
	31）行きたかった場所を訪れることができた	4	0.7	3		1				
	32）今まで言えなかったことを言い表せた	6	1.0	5	1					
	33）今までよりもお金が入り豊かになった	4	0.7	4						
	34）今までよりも自由な身になれた	3	0.5	3						
	35）今まで心配していたことが解決された	4	0.7	4						
	（小計）	44	7.6	41	1	2				
⑤比較的良い物や状態を得ること	36）自分（達）の力量の手応えを感じた	4	0.7					4		
	37）自分なりに納得のいく結果になった	5	0.9		5					
	38）値段以上の価値がありお得な感じがあった	4	0.7		4					
	39）賭け事に勝って儲けることができた	3	0.5		3					
	40）髪型やコーディネートがピッタリと合った	3	0.5		3					
	41）大会や試験などで良い成績を残せた	17	2.9		13	3				1
	42）取りかかった行事が成功した	10	1.7	2	2					6
	43）作品や演奏などがミスなく上手にできた	14	2.4		14					
	44）予定していたことが思い通りに進んだ	8	1.4		1	7				
	45）作品や演奏などを他者に喜んでもらえた	4	0.7		3					1
	（小計）	72	12.4	2	48	10		4		8
合計		**116**	**20.0**	**43**	**49**	**12**		**4**		**8**

分割表2.3　Ⅲ　対人的関係上の承認（再認）

内　　容		度数	%	対象を思い描いていた			不可分	対象に関与し続けていた		
				切望していた	希望していた	想定していた	幸せなひとときき	心惹かれた	存分にした	がんばってやった
⑥人よりも秀でる状態を得ること	46）特定の相手（人）よりも勝ることができた	17	2.9	5			12			
	47）コンテストや大会で入賞した	7	1.2				6			1
	48）人並みはずれた技術・能力を持っていた	3	0.5				3			
	49）試合や試験で上位に入ることができた	26	4.5		1	2	22			1
	（小計）	53	9.1	5	1	2	43			2
⑦人と友愛や情愛を感じる状態を得ること	50）身近な人（親・友だち等）に誉められた	12	2.1				8			4
	51）友だちとの関係が望ましい状態にある	17	2.9				17			
	52）家族とともに一家団欒をして和んだ	6	1.0				6			
	53）好きな人（恋人）と一緒にいれた	6	1.0				6			
	54）身近な人がよい人で恵まれていると感じた	7	1.2				7			
	55）身近な人に大切にされた	14	2.4				14			
	56）出会ったときよりも親密になれた	7	1.2	5	2					
	（小計）	69	11.9	5	2		58			4
合計		**122**	**21.0**	**10**	**3**	**2**	**101**			**6**

分割表2.4　Ⅳ　生理的な心地よさの持続（余音）

内　容		度数	%	対象を思い描いていた			不可分	対象に関与し続けていた		
				切望していた	希望していた	想定していた	幸せなひとときを	心惹かれた	存分にした	がんばってやった
⑧心地よい刺激を与えられた食事	57）空腹が満たされる	4	0.7	4						
	58）腹一杯（満腹）になった	13	2.2							13
	59）食べ物がおいしかった	18	3.1					18		
	60）好物を食べた	4	0.7				4			
	61）たくさんの量を食べた	10	1.7						7	3
	62）おいしいものを腹一杯食べた	10	1.7		10					
	63）好物を腹一杯食べた	3	0.5		3					
	64）おいしいものをたくさん食べた	7	1.2						7	
	65）好物をたくさん食べた	4	0.7		3				1	
	66）ご馳走（お寿司等）を食べた	9	1.5				9			
	67）口の中でほおばった	1	0.2		1					
	（小計）	83	14.3	4	17		13	18	15	16
⑨休息を得ること	68）緊張が緩和した	5	0.9		5					
	69）横になれた	2	0.3	2						
	70）ぐっすり眠れた	4	0.7						4	
	71）のんびりと過ごした	3	0.5				3			
	（小計）	14	2.4	2	5		3		4	
合計		**97**	**16.7**	**6**	**22**		**16**	**18**	**19**	**16**
総　計		**581**	**100.0**	**94**	**108**	**17**	**118**	**33**	**55**	**156**

2.9）であった。⑦身近な人と友愛や情愛を感じる状態を得ること（69名，11.9％）では、51.友だちとの関係が望ましい状態にある（17，2.9）、次いで55.身近な人に大切にされた（14，2.4）、50.身近な人（親・友だち等）に誉められた（12，2.1）であった。

『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』に対する満足においても2つの中分類があった。⑧心地よい刺激を与えられた食事（83名，14.3％）で出現頻度が最も多かったものは、59.食べ物がおいしかった（18，3.1）、次いで58.腹一杯（満腹）になった（13，2.2）であった。⑨休息を得ること（14名，2.4％）では、68.緊張が緩和した（5，0.9）が最も出現頻度が多かった。

2. 満足体験時の「年令」区分の構成

表1．の年令区分の最下段（分割表1.4下）には、満足体験全体の年令区分ごとの頻度が示されている。これによると、対象者が報告した満足体験において記述した体験時年令の区分において、最も頻度が多かったものは、18～20才（246名，42.3％）、次いで15～17（135，23.2）、12～14（60，10.3）であり、12～20才の中学時代から大学時代までで、年令区分全体の75.8％を占めるものであった。それ以外の各年令区分の比率は1割にも満たないことが示され、更に、年令が未記入・不特定であったものが61名（10.5％）にも及んでいたことが明らかとなった。

3. 満足体験の「状況」

表2の最下段（分割表2.4下）は、満足がどういう場合に、またどういう状況で体験されたの

かについての分類ごとに、その出現頻度を全体として示したものである。

「がんばってやった」に分類されたものが最も多く、156名（26.9％）となっており、意図的な労力というよりも自然と集中していくレベルにある「存分にした」が55名（9.5)、さらに最も無意図的なレベルにある「心惹かれた」が33名（5.7）であった。これらは、いずれも一定の関与を対象にし続けたということであるが、合計すると関与の継続をした状況を記述していた者は、244名で比率は42.0％であることが明らかとなった。

他方、「切望していた」に分類されたものは94名（16.2）であり、積極的にほしがっているというよりはマイルドなレベルにある「希望していた」が108名（18.6)、さらに得られることを期待している比較的理知的なレベルにある「想定していた」が17名（2.9）となっていた。これらは、対象を目前にすることなく思い描いた後にそのモノを得たということであるが、合計すると、219名で比率は37.7％であった

最後に、対象を目前にしているという意味では関与の継続と関連し、いつまでもそうありたいという意味では思いの継続と関連しているという、両者が同時的に生じていて密接不可分な状況であると思われるような「幸せなひととき」は、単独で118名おり、その比率は20.3％であった。

4. 満足体験の「条件」

「必要因→必要果」に分類されたものは、「××せざるをえず、その結果○○を得る」という2つの条件が継次的に成立したもので、79名（13.6％）となっていた。同様に継次的な条件ではあるがもっと濃密な関連をもつ「充分因→充分果」は「＋＋に積極的に関わることによって、それに見合う価値のある◎◎を得る」もので、これは128名（22.0％）であった。

次に、「必要因＜充分因」に分類されたものは、「××にとどまらず＋＋までし得た」というもので、関与が継次的に拡大したことを示しているが、これは7名（1.2％）であった。それとは異なり「必要果＜充分果」に分類されたものは、「○○にとどまらず◎◎までも得る」で、得られたモノの良さが継次的に拡大したことを示している。この分類は161名（27.7％）におよんでいた。

更に、「充分果＋充分果」は「◎◎も、それとは異なる◎◎も得る」というもので、1つのモノを得た上で、なおかつそれとは異なるモノをほぼ同時的に副次的に得られることを条件としているが、これは155名（26.7％）となっていた。それとは別に「充分果…充分数」は「◎◎が1つだけでなく、同一の◎◎をたくさん得る」というもので、45名（7.7％）であった。なお、分類が定まらなかったものが6名（1.0％）となっていた。

5. 満足体験の「対象」と「年令」

表1．の年令区分を大分類（分割表）ごとに見てみると、『Ⅰ意味や意義のある時間』においては、最も出現頻度の多かった年令区分は120名の18～20才であり、本分類内での全体246名における比率は48.8％を占めていた。次いで多かったのは15～17才（62名，25.2％)、12～14（24，9.8）であった。同様に『Ⅱ抱いていた願望の成就』116名での最多頻度の年令区分も18～20（64，55.1)，次いで15～17（22，19.0)、12～14（15，12.9）であった。

『Ⅲ対人的関係上の承認（再認)』122名においては、15～17（38，31.1）が1位となり、次いで18～20（32，26.2)、12～14（16，13.1）となっており、『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音)』97名では、最多が18～20（30，30.9)、次いで15～17（13，13.4）というものであった。他の分

類で3位だった12～14（5，5.2）がここでは4位であった。

いずれの分類においても、12～20才までを合わせた年令区分に出現頻度が集中している傾向はあるが、12～14、15～17、18～20までの合計が分類内で最も高い比率を示したものは、『Ⅱ抱いていた願望の成就』（87.0％）であり、その次が『Ⅰ意味や意義のある時間』（83.8）、『Ⅲ対人関係上の承認（再認）』（70.4）、『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』（49.5）の順になっていたことが明らかとなった。比較的高年令での出現頻度が低かった『Ⅲ対人関係上の承認（再認）』では、4～5才（7名，5.7％）と6～8（11，9.0）、9～11（11，9.0）の3区分の年令合計の比率、すなわち4～11才までの構成比が23.7％になっており、他の分類と比較して最大の出現比率を示していた（Ⅰでは246名中の8名で3.3％，Ⅱでは116名中4名で3.4％，Ⅳでは97名中10名で10.3％）。

6. 満足体験の「対象」と「状況」

表2．の満足体験が生じている状況を大分類（分割表）ごとに見てみると、『Ⅰ意味や意義のある時間』においては、最も出現頻度の多かった状況区分は126名の「がんばってやった」であり、分類内での合計246名における比率は51.2％であった。2番目は「存分にした」（36名，14.6％）であった。これらの状況はいずれも目前にある対象に関与し続けたという特徴を有するものであった。『Ⅱ抱いていた願望』116名では、最も多かった状況は「希望していた」（49名，42.2％）、2番目が「切望していた」（43，37.1）であり、これらの状況はいずれも目前にはない対象を思い描いていたという特徴を有するものであった。『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』122名の「幸せなひととき」（101名，82.8％）は単独で8割を超える比率を示しており、これの特徴は思いの継続と関与の継続が密接不可分な状況にあるというものであった。『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』97名では、最多が「希望していた」（22名，22.7％）とはなっていたが、2番目「存分にした」（19，19.6）、3番目「心惹かれた」（18，18.6）、4番目「がんばってやった」「幸せなひととき」（16，16.5）とも同程度の比率を示す結果となった。

7. 満足体験の「対象」と「条件」

『Ⅰ意味や意義のある時間』においては、最も出現頻度の多かった条件構成は77名の「充分因→充分果」であり、分類内での合計246名における比率は31.3％であった。2番目は「必要因→必要果」（60名，24.4％）であった。これらの条件はいずれも“因”（関与）と“果”（結果）の条件を含むものであり、欲求・要求によって関与を開始したこと、欲求・要求の対象が得られたことの2条件によって成立するというものであった。

『Ⅱ抱いていた願望』116名では、最多の条件は「必要果＜充分果」（51名，44.0％）、2番目が「充分因→充分果」（32，27.6）であり、これらの条件はいずれにせよ結果として「充分果」が得られることを意味するものであった。

『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』122名における最多の条件は「充分果＋充分果」（73名，59.8）で、2番目は「必要果＜充分果」（31，25.4）であった。同様に『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』97名も、「充分果＋充分果」（39，40.2）、次に「必要果＜充分果」（23，23.7）となっており、いずれも“因”（関与）の条件を含まないものであること、結果条件のみの組合せによって、いずれも結果の増大が生じていることを意味するものであった。

考　察

1. 満足感情の特徴

1-1. 満足体験581の記述から、どのような対象に対して満足感情が生起するかについて分類した結果、全ての満足体験は、『Ⅰ意味や意義のある時間』『Ⅱ抱いていた願望の成就』『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』『Ⅳ生理的な心地よさの持続』に対するもののいずれかであり、これらは、いずれも、得られた結果そのものを対象とするものではなく、“有意味な経過”を対象とするものであることがわかった。このことは、満足の感情が、無為・無駄ではなかった比較的継続的・持続的な経過を有する事象に対して生じる感情であるという特徴をもつことを示すものである。また、満足感情は、個別の諸事象に直面したその瞬間に生じる感情「驚き」（上杉・岡本・平宮・吉川 2003）と異なるだけでなく、その直後比較的速やかに喚起されるさまざまな基本的感情「喜，怒，悲，嫌，etc」とも異なり、直面した事象の前後の事象を含めた諸事象全体の経過を意識する感情が「満足」であることが示唆された。

1-2. また、その中でも『Ⅰ意味や意義のある時間』に対する満足は、4つの大分類の中で最も出現頻度が高く、単独で4割以上を占めていることから、日常生活で最も「満足」らしい満足として体験されており、満足感情を代表するものとして考えることができた。この満足感情には、②最後に報われたことに見られるように、有意味な経過（努力，我慢，etc）に見合った客観的評価（勝利，成功，賞賛，etc）を伴うものが含まれている（246名中37.0％）が、たとえそのような結果が伴わないものであっても、有意味な経過だと感じられたことで生じていた満足の方が、出現比率は高い。それは、例えば、1）課題（レポート等）や行事を終わらせたことや、6）一定の活動（クラブ等）を長期間やり通したことのような、①最後までやり終えたことのみでの満足や、20）順調な日々で未来に期待が持てる感じがするや、18）好きなこと（趣味等）に没頭した、16）勉強や練習に目標をもってがんばれたなどの、③充実した時間が持てたことでの満足というものであった。また、②最後に報われたことに対する満足でさえ、良い結果を得たことによって、長い労苦が決着したという経過を再評価している面があるものと思われる。従って、日常生活における満足感情は、途中で投げ出さないでやり続けられた場面で典型的に生じており、そのことを「自分にとって意味がある（価値がある）」と了解しているということは、日常生活における様々な一貫した、継続した活動を将来的にも志向することになり、この『Ⅰ意味や意義のある時間』に対する満足が、社会性のある健全な自己（特に調査対象者の世代である青年）を支える極めて重要な満足感情であることを伺わせるものであった。

1-3. 更に、満足体験は「どういう場合、状況で満足したか」についての分類から、その内容が、「切望していた」「希望していた」「想定していた」のように目前にはない事象を思い描いていてそれが得られた場合のものと、「がんばってやった」「存分にした」「心惹かれた」のように既に与えられている目前の事象に対して関与し続けた場合のもの（両者は同程度4割の出現比率）、得られただけでも良いがいつまでも浸っていたいという「幸せなひととき」のいずれかであることがわかった。この「幸せなひととき」に分類されるものが8割にもおよび圧倒的に高かった『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』は、年令区分において他の分類よりも比較的低年令（4～11才）での出現率が高く（2割強）、他の分類より10ポイント以上の差が認められた。従って、種々の基本的感情（喜，悲，etc）よりも複雑だと推定される満足感情においては、比較的低年令の頃

に、他者（主に身近な人）からうける能力や努力、あるいはありのままの自分に対する承認、それさえあれば他に望むものがないと言いうるほどの身近な人との関係性（優位あるいは情愛）が得られたことを原点としていると考えられ、『Ⅲ対人的関係上の承認（再認）』に対する満足が、満足感情の源泉（基盤）となっていることを示唆するものとなった。

1-4. 日常生活上ではまさに必須として考えられるような『Ⅳ生理的な心地よさの持続（余音）』に対する満足は、いかなる性質をもっているのであろうか。これに対する満足感情は、いずれかの状況に特に集中することなく、おのおのの状況での比率が同一の傾向にあった。このことは、生理的なものが関わる思いの継続や関与の継続に様々な状況が生じるものであることを意味するが、もともと生理的な動因の低減（食欲を満たすこと、休息する等）を必須としながらも、それ以上のことが生理的な満足には生じてくることの表れにもなっている。空腹時に食べた食物が喉を伝わっていく感じ、満腹で胃が拡張して少し苦しさが伴う感じ、舌で感じるおいしさ（味わい）、手（はし）でかきこむようにして思いきり食べる感じ、好物を食べる時には胸がはずむような感じ、のように食事における様々な満足の仕方があるということは、「有意味な経過」とされるその経過の有り様、つまり具体的な対象をどのように得るのか（関与の仕方）、関連する感覚・運動器官のどの部位の活動性が主に高められているのかによって、同様だと思われる対象に対するものでも、様々な満足感情が派生しうるという性質を持っていることを意味することとなろう。

2. 満足感情の構造

2-1. 満足感情の特徴は、対象とするものの分析から、共通項として「有意味な経過を得る」ものであること、状況による分析から、有意味な経過が、大別して、思いの持続と関与の持続、密接不可分の3つのものがあることが検討された。それでは、有意味であると思われるために必要な条件は何であったのか。単純な機能的な充足を考えた場合、経過時間の開始点で欲求に応じて対象に関与することと、終了点で欲求の対象を得ることという2つの条件が要求される。欲求の対象が得られなければ「満足」が得られないのは当然として、欲求をもたない状態で全くの幸運（偶然）によって得られたものは「喜び」にはなりえても、「満足」には至らない。「満足」には前件と後件の条件があり、どちらが欠けても成立しない。“有意味さ”とは、前件Xだけでなく、後件Yも満たしている、すなわち「○○だけでなく××もある」というように、一般的に表わせることになるだろう。この前件Xの成立と後件Yの成立という2つの条件の成立（有意味）間に一定の経過があることが、満足感情の構造から導き出された特徴なのだと思われる。

そこで、欲求に応じた関与の軸（次元1）において、必要にかられて生じる関与（必要因）と積極的に関わろうとする関与（充分因）、欲求に応じて得たモノの軸（次元2）においても、最低限得られたモノ（必要果）と最大限に得られるモノ（充分果）に2分化し、前件Xと後件Yにどのような組合せがあるのかを、満足体験の記述から分類した。その結果、a.必要因→必要果：Xをせざるをえず、その結果Yを得る、b.充分因→充分果：Xに積極的に関わることによって、それに見合うYを得る、c.必要因＜充分因：Xにとどまらず Yまでし得た、d.必要果＜充分果：Xにとどまらず Yまでも得る、e.充分果＋充分果：Xも、それとは異なるYも得る、f.充分果…充分数：Xが1つだけでなく、Y（同一のXを多数）個も得る、の6つの組合せが得られた。これにより、a.必要因→必要果やb.充分因→充分果などのような前件Xに応じた後件Yの条件成立があったこと（充足）、c.必要因＜充分因やd.必要果＜充分果などのような前件Xよりも価値のある後件Yの条件成立があったこと（拡大）、e.充分果＋充分果やf.充分果…充分数のような前件

Xと同等の価値のある後件Yの条件成立があったこと（増量）の3様の有意味さの基本構造があることが示唆されるものとなった。

2-2. 以上のことから、満足体験はⅠ意味・意義のある時間に対する満足、Ⅱ抱いていた願望の成就に対する満足、Ⅲ対人的関係上の承認（再認）に対する満足、Ⅳ生理的な心地よさの持続に対する満足の4種類があり、その満足感情が生起する特徴は、A自分にとって大切なモノ（有意味な経過）が、B自分自身との2者関係において、「切望していた」「希望していた」「想定していた」「幸せなひととき」「心惹かれた」「存分にした」「がんばってやった」状況下で、「前件Xとそれに続く後件Yの2条件の成立（充足，拡大，増量）後に、B自分自身が、A自分にとっての大切なモノ（有意味な経過）を「得る」場合に生じるものであると考えることができた。

3. 喜び、充実体験との比較

3-1. 一連の感情体験の分析から、満足感情と密接に関係しているものと思われる「喜び」と「充実」感情についての特徴と、今回の「満足」感情の特徴との比較を試みることによって、満足感情が類似した他の感情とはどの点が異なるか、その識別子となりうるものを検討してみることにした。

まず、「喜び」の場合には、喜び感情の特徴は、「様々な対象を得る」というものであることが第2報によって示された（鈴木，鈴木，上杉 2002）。これに基づいてみると、満足感情も良いモノ、大切なモノを「得る」ことには違いがないので、喜びとの共通点はかなりあるのではないかと推測される。喜びが生じる状況は、1）物（望んだもの、美味しいもの、給料など）、を得た場合、2）心（愛情・行為・充実・達成）を得た場合、3）人（友人・恋人）を得た場合、4）成功、5）ささやかな幸福であり、確かにこれらは、いずれも満足体験の記述内容にも見受けられるものであった。更に言うならば、一見するところ、喜びと満足の体験の記述内容にはさしたる違いが認められないかもしれないのである。しかしながら、満足感情の分析を通して、この感情が大切なモノを直接的に得ることに特徴があるのではなく、どのようにしてそのモノを得たのか、その得方（有意味な経過）を「得る」ことにこそ本意があることが示唆されてきた。これは、喜び感情が事象に直面した後、比較的速やかに生じる感情であるのに対し、満足感情が事象の経過を経た上で生じる感情であること、事象の開始時点での前件Aでの状態と終了時点での後件Bでの状態の変化・比較から生じている感情であること意味するものともなる。具体的な記述内容の一つである「確信していたとおり、部活の市内大会で優勝したとき。喜びもあったけれど、確信していたので満足感が強かった」が端的にそのことを表している。この記述は、優勝したなどの後件事象そのものの価値においては喜びが生じているが、確信していたなどの前件事象がないと満足にはいたらなかったと解釈されるものであった。

3-2. 次に、「充実」の場合は、充実の感情は、「自分にとって有意義なモノに対して、自分が焦点づけられている」場合に生ずるものであることが、第6報によって示された（上杉，芝塚，高橋，平宮 2004）。これもやはり、満足感情も有意義なモノに焦点づけられていることには変わりがなく、その意味で充実との共通点はかなりあるのではないかと推測される。充実が生じる状況は、1）達成すること、2）携わっていること、3）暇な時間がないこと、4）新鮮な体験をすること、5）良い状態にあること、6）好きな人と関わっていることであったが、この中で、3）暇な時間がないことは、満足感情からしてみると、違和感のあるものであった。確かに、充実体験には「授業、アルバイト、ボランティアと休んでいる時がないこと」「バイト先のケーキ屋での

目まぐるしいほどのクリスマス商戦」「毎日、勉強と部活に追われていたこと」などのように、やや否定的な意味合いを含んだ記述内容も見受けられた。忙しさに追われている、切れ目がない状態は、充実とは言いうるであろうが、満足とは言い難い。このことは、充実感情が、有意味な経過から逸脱してしまう可能性をもったものであることを伺わせるものである。従って、満足感情には、経過が有意味であることだけではなく、適度な充実、適度な心地よさ、(望外ではない)適度な成就など、“適切な”経過を条件として加味する必要性があることを予見するものとなった。

付　記

継続的に行われてきた「感情体験の分析」の考案者であり、未熟な私どもを共同研究者として叱咤激励し、ご指導をいただいていた上杉喬先生が、本稿が掲載されるのを見届けることなく、2005年12月6日に逝去されてしまった（享年66歳)。「感情は対象とともにある」として、具体的な感情体験20感情607名（延べ数12,140件）の膨大な自由記述データを分析し、その感情の特徴や構造の検討を試みようとしてきた上杉先生のご姿勢、ご見識に、多くのことを学ばせていただいた。ここに記して、深く感謝の意を示させていただくとともに、先生のご冥福を心より願いたい。ご遺志に応えられるよう、今後も研鑽を努めていくことでご恩に報いたいと切に思う。

参考文献

Izard,C.E. 比較発達研究会訳　感情心理学　ナカニシヤ出版　1996
右山裕一・上杉喬　感情体験の分析（Ⅴ）— 屈辱について —　言語と文化　第16号　81-100　2003
守谷賢二・芝塚梨華・上杉喬　感情体験に関する研究（Ⅰ）— 不安 —　日本人間性心理学会第22回大会発表論文集　114-115　2003
芝塚梨華・守谷賢二・上杉喬　感情体験に関する研究（Ⅱ）— 恐れ —　日本人間性心理学会第22回大会発表論文集　116-117　2003
鈴木賢男・鈴木国威・上杉喬　感情体験の分析（Ⅱ）— 喜び・悲しいについて —　言語と文化　第15号　42-66　2002
鈴木賢男・上杉喬　感情体験の分析（Ⅳ）— 失望について —　人間科学研究　第25号　63-75　2003
上杉喬　感情イメージの研究　人間科学研究　第3号　22-38　1981
上杉喬　感情イメージの研究（Ⅱ）— 労働場面における感情イメージ —　人間科学研究　第4号別冊　29-40　1983
上杉喬　感情イメージの研究（Ⅲ）— 労働場面における感情イメージの諸関連 —　人間科学研究　第5号別冊　11-20　1984
上杉喬　感情イメージの研究（Ⅳ）— 対象による違いと性による違い —　人間科学研究　第11号　1-11　1989
上杉喬　感情イメージの研究（Ⅴ）— SD法による感情イメージの検討 —　人間科学研究　第20号　68-77　1998
上杉喬・鈴木賢男　感情イメージの研究（Ⅵ）　— 感情価とパーソナリティー特性との関連 —　生活科学研究　第22号　121-132　2000
上杉喬・樋場真知子・馬場史津　感情体験の分析　— 嫉妬・憎い・怒りについて —　生活科学研究　第24号　25-40　2002

上杉喬・岡本かおり・平宮正志　感情体験の分析（Ⅲ）— 驚き・寂しい・愛しい・空しいについて —
生活科学研究　第25号　61-89　2003
上杉喬・芝塚梨華・高橋直美・平宮正志　感情体験の分析（Ⅵ）— 恐れ・充実・恥ずかしいについて —
生活科学研究　第26号　79-108　2004
Plutchik, R.　The multifactor-analytic theory of emotion　Journal of Psychology　50　153-171　1960